

これまでの研究会の開催結果概要

1 研究会の概要

- 都市計画や経済、観光、建築等を専門分野とする地元大学教授6名により構成。
(座長：黒田達朗 名古屋大学大学院教授、オブザーバー：常滑商工会議所)
- 中部国際空港エリアを中心に、MICEを核とした国際観光都市として魅力ある機能整備のあり方について幅広い視点から研究・検討することを目的とする。

2 研究会の開催状況及び議論の内容

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>第1回 (29. 8. 3)</p> | <p>内容：世界・日本の観光の動向、愛知の現状と動向、中部国際空港エリアの現状等 (主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の魅力向上に力を入れ、国際観光推進の戦略を明確に打ち出すことが必要。 ○ 中部地域は、アフターコンベンション機能が弱い。 ○ ハード施設と同時に、受入態勢やプロモーション、都市の魅力向上等が必要。 |
| <p>第2回 (29. 9. 14)</p> | <p>内容：国際観光都市としての機能整備の方向性と導入すべき機能のイメージ等 (主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ターゲット層を明確にし、それを踏まえた機能整備を考えるべき。 ○ 愛知らしさの特色を出していくことが重要。愛知にしかないエンターテイメントを考えていかなければならない。 ○ 空港エリアに人を呼び込むだけでなく、そこから各地域へ人を送り出す機能についても検討が必要。 |
| <p>第3回 (29. 11. 15)</p> | <p>内容：ターゲットを踏まえた機能整備、この地域ならではの特色、周辺地域との連携等 (主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ MICE参加者、訪日外国人旅行者を中心に集客し、MICE施設と併せて多様なニーズに対応する宿泊機能や多彩なエンターテイメント機能等の整備を図るという方向性で異論ない。 ○ ロボットなどこの地域ならではの最先端技術を世界にアピールできるとよい。その上で、最先端技術をショーケースとして見せ続ける仕組みも必要。 ○ 空港エリアでコンシェルジュ機能が必要であり、しっかり研究すべき。 |

【ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ（第3回研究会資料より）】

